

福岡県第532号 (地)
令和7年5月15日

各感染症対策主管課長
各 医 師 会 長 殿
定点観測医療機関長

福岡県医師会
会 長 蓮 澤 浩 明
(公印省略)

福岡県結核・感染症発生動向調査解析委員会 週報

週報 令和7年—第19週 (R7. 5. 5~R7. 5.11)

定点	病 名	定点報告数 (○: 警報レベル, □: 注意報レベル)						1定点当たり	
		14週	15週	16週	17週	18週	19週	福岡県	全国
		3/31~	4/7~	4/14~	4/21~	4/28~	5/5~	19週	5/5~
ARI	急性呼吸器感染症	-	4267	5305	5914	5296	5212	42.72	47.63
	インフルエンザ	214	112	147	146	92	119	0.98	0.67
	新型コロナ感染症	248	182	137	113	90	95	0.78	0.94
	RSウイルス感染症	193	131	118	79	55	13	0.19	0.30
小児科	咽頭結核熱	60	22	30	37	39	31	0.44	0.40
	A群溶レン菌咽頭炎	280	217	259	267	196	205	2.93	1.98
	感染性胃腸炎	1037	702	807	747	615	622	8.89	5.78
	水痘	24	21	32	26	25	36	0.51	0.50
	手足口病	4	3	2	8	12	3	0.04	0.08
	伝染性紅斑	45	43	64	76	72	86	1.23	1.14
	突発性発しん	38	27	26	37	40	35	0.50	0.30
	ヘルペギーナ	1	1	3	2	1	1	0.01	0.03
	流行性耳下腺炎	4	4	6	4	12	5	0.07	0.06
	川崎病 (MCLS)	12	8	8	9	14	7	0.04	
	マイコプラズマ肺炎	16	8	10	8	10	6	0.05	
	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0.00	
	無菌性髄膜炎	0	0	1	0	0	1	0.01	
	急性脳炎	0	1	0	0	1	0	0.00	
	急性出血性結核膜炎	0	2	0	1	0	1	0.04	0.04
	流行性角結膜炎	5	12	14	19	7	5	0.19	0.75
眼科									

月報 令和7年—4月 (R7.4.1~R7.4.30) (STD 定点数37)

病 名	定点報告数	前月比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全 国
性器クラミジア感染症	83	63%	福岡35、北九州27	2.24	2.39
性器ヘルペス	50	91%	福岡34、北九州10	1.35	0.90
尖圭コンジローマ	14	64%	福岡8、筑豊3	0.38	0.54
淋菌感染症	18	51%	筑豊5、筑後5	0.49	0.63

■ 総 評

▽ 2025年第19週: R7.5/5-5/11は前週同様に大型連休が含まれます。インフルエンザは定点当たり0.98、キットではA型14人、B型52人とB型が多い。感染性胃腸炎ではノロもロタも報告が続く。全国的に麻しんが多発し、福岡市から麻しんが累計で3人報告がある。百日咳の報告が多い。大型連休の人の移動に伴う感染症の発生・流行にご注意ください。

■ ARI (R7.15週より内科定点数78-52 ※ARI 定点は内科定点と小児科定点によって構成)

- ※ 急性呼吸器感染症: 4週間前から4267、5305、5914、5296、5212と推移。
- ※ インフルエンザ: 定点当たり0.98と1.0未満(前週0.74; 20歳以上21.0%)、キットではA型14人、B型52人とB型がA型より多い、全国定点当たり0.67(前週0.79)。
- ※ 新型コロナ感染症: 20歳以上82.1%、定点当たり0.78(前週0.78)、全国定点当たり0.94(前週1.10)。

■ 小児科 (R7.15週より小児科定点数120-70)

- ※ RSウイルス感染症：減少傾向(4歳以上2人)。
- ※ A群溶レン菌咽頭炎：発疹合併：3歳女2人、11歳男、女。
- ※ 感染性胃腸炎：3歳以下37.5%。ノロウイルスもロタウイルスも報告が続く。
 - ・カンピロバクター：9歳女、11歳男、12歳男、14歳女、16歳男。
 - ・サルモネラ：07群：1歳男。
 - ・黄色ブドウ球菌：6か月女(MSSA)、11か月女(MSSA)。
 - ・ロタウイルス：1歳男3人、女、2歳男、女2人、3歳男、4歳女3人、5歳男3人、女、6歳男、女3人、7歳女2人、8歳女、9歳男2人、女2人、11歳男、13歳女、10-14歳女。
 - ・アデノウイルス：1歳男。
 - ・ノロウイルス：7か月女、10か月男、11か月女、1歳男4人、女2人、3歳女、4歳女、12歳男、14歳男。
- ※ 水痘：15歳以上2人。ワクチン済例：3歳男(R5. 4/6にVZ340、R5. 11/2にVZ349；軽症)、6歳男(R1. 11/30にVZ266、R2. 5/30にVZ278；中等症)、6歳男(R1. 12/27にVZ269、R2. 8/19にVZ288；中等症)、6歳男(R2. 2/19にVZ274、R2. 8/22にVZ285；中等症)、6歳男(R2. 1/24にVZ271、R2. 9/2にVZ288；軽症)、6歳女(R1. 12/26にVZ268、R2. 6/30にVZ282；中等症)、6歳女(R2. 9/8にロット不明；軽症)、7歳女(H30. 8/21にVZ237、H31. 2/15にVZ247；軽症)、7歳女(H30. 12/25にVZ242、R1. 7/2にVZ253；軽症)、9歳男(H29. 3/6にVZ189、H29. 7/27にVZ202；中等症)、9歳男(H28. 8/31にVZ178、H29. 1/23にVZ186；軽症)、9歳女(H29. 5/17にVZ199、H29. 11/24にVZ214；軽症)、9歳女(H28. 7/12にロット不明、H29. 1/17にVZ193；中等症)、10歳男(H27. 10/16にV141、H28. 5/2にVZ170；中等症)、10歳女(H27. 12/9にVZ142、H28. 7/12にVZ176；中等症)、11歳男(H26. 12/26にVZ129、H27. 6/26にVZ123；軽症)、11歳女(H27. 6/23にVZ123、H28. 1/6にVZ142；軽症)、13歳女(H26. 12/26にVZ129、H27. 3/31にVZ123；中等症)。
- ※ 伝染性紅斑：今後の動向に注意。
- ※ 流行性耳下腺炎：15歳以上0人。ワクチン済例：11歳女(H27. 5/27にG517、R2. 7月にロット不明；軽症)。
- ※ マイコプラズマ肺炎：15歳以上2人。報告数少ない。
- ※ その他の疾患：ヒトメタニューモ：前週30人、今週12人で減少。

■ 眼科 (眼科定点数26)

- ※ 流行性角結膜炎：キット陽性：報告なし。

■ 基幹 (基幹定点数15)

- ※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：5歳男2人、7歳女、14歳女。

■ ウイルス分離

急性呼吸器感染症(ARI)：4/22の53歳男、65歳女から新型コロナウイルス、4/15の1歳女からRSウイルスA型・アデノウイルス・ヒトパラインフルエンザウイルス3型、4/16の1歳女からアデノウイルス・ヒトパラインフルエンザウイルス3型、4/15の1歳男からアデノウイルス、4/15の10か月女、4/16の9歳女、4/22の1歳男、女からライノ/エンテロウイルス、4/15の1歳男、4/22の3歳女からヒトパラインフルエンザウイルス3型、4/22の3歳女からヒトメタニューモウイルス。
ヘルパンギーナ：2/25の7歳男からコクサッキーB5型。[福岡市保健環境研究所]

■ 全数報告

- ※ 腸管出血性大腸菌：全国今週22人、全国累計471人、福岡県今週7人、福岡県累計37人。
- ※ エムボックス：全国第14週1人(東京都)、全国累計1人(東京)。
- ※ 重症熱性血小板減少症候群：全国今週6人、全国累計23人、福岡県累計0人。
- ※ デング熱：全国今週2人、全国累計53人、福岡県今週1人、福岡県累計4人。
- ※ 劇型溶レン菌感染症：全国累計600人、福岡県累計32人。
- ※ 梅毒：全国累計4755人、福岡県累計279人。
- ※ 百日咳：全国累計16475人、福岡県累計895人。8歳女はIgM陽性、11歳男はLAMP陽性、13歳男、17歳男はPCR陽性。
- ※ 風しん：全国第19週に0人、全国累計6人(秋田1、栃木1、東京1、富山1、静岡1、京都1)。
- ※ 麻疹：全国第19週に11人(茨城県～岡山県)、全国累計116人(宮城～大分；福岡3、大分2)。

※ 福岡県医師会ホームページの感染症情報欄にも掲載されていますので下記URL及びQRコードよりご参照下さい。

URL：https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kansenshou/_11717.html

ホーム>医師の皆様>感染症・予防接種>感染症発生動向調査

青木 知信



令和7年—第19週(R7.5.5～R7.5.11)

定点把握対象疾患 1 定点医療機関当たり患者数 【保健所別】

		北九州市	福岡市	久留米市	宗像・遠賀	粕屋	筑紫	糸島	田川	北筑後	南筑後	京築	直方・敏手
インフルエンザ/ COVID-19 定点	インフルエンザ	2.09	0.78	0.57	1.14	0.43	0.60	1.00	-	0.75	1.00	0.25	0.57
	COVID19	1.22	0.88	0.29	0.86	0.29	1.10	0.50	-	0.50	0.33	1.00	0.14
小児科定点	RSウイルス感染症	0.31	0.17	-	-	-	0.50	-	-	0.50	-	0.50	-
	咽頭結膜熱	0.31	0.88	-	-	-	0.50	-	-	-	0.60	-	-
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.92	2.92	1.00	2.25	2.25	5.00	1.00	-	4.50	2.40	4.50	0.25
	感染性胃腸炎	10.69	7.04	8.00	3.25	7.75	19.33	19.00	3.00	12.00	11.00	8.50	1.00
	水痘	0.08	0.33	0.75	-	5.00	0.33	1.00	-	-	-	-	0.25
	手足口病	0.08	0.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	伝染性紅斑	0.54	1.92	0.50	0.75	1.50	0.83	3.00	-	3.50	0.80	1.00	0.25
	突発性発しん	0.31	0.42	0.75	-	0.50	1.17	-	-	1.50	1.00	0.50	-
	ヘルパンギーナ	-	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	流行性耳下腺炎	-	0.13	-	0.25	-	0.17	-	-	-	-	-	-
眼科定点	急性出血性結膜炎	-	0.14	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-
	流行性角結膜炎	-	0.14	3.00	-	-	-	-	-	...	-	-	0.50
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-
	真菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	...	-	-	-	-	-
	感染性胃腸炎 (病原体不明に属する)	5.50	0.50	-	-	1.00	-	...	-	-	-	-	0.50

定点把握対象疾患 報告数 【年齢階級別】

		0～5カ月	6～11カ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
インフルエンザ/ COVID-19 定点	インフルエンザ	1	1	3	12	16	29	32	1	6	13	2	3	-	-
	COVID19	1	2	6	2	-	2	4	7	12	6	17	15	9	12
小児科定点	RSウイルス感染症	2	3	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	咽頭結膜熱	-	5	23	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	1	37	74	62	24	3	4	-	-	-	-	-	-
	感染性胃腸炎	4	47	182	145	118	68	8	50	-	-	-	-	-	-
	水痘	-	-	2	11	11	10	2	-	-	-	-	-	-	-
	手足口病	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	伝染性紅斑	-	1	18	39	21	6	-	1	-	-	-	-	-	-
	突発性発しん	-	5	29	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘルパンギーナ	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	流行性耳下腺炎	-	-	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
眼科定点	急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	1	-
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	真菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	感染性胃腸炎 (病原体不明に属する)	-	-	3	6	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-

全数把握対象疾患発生状況

令和7年－第19週(R7.5.5～R7.5.11)

感染症 類 型	疾病名	福岡累計					福岡					全国
		2020	2021	2022	2023	2024	16週	17週	18週	19週	25年 累計	19週
二類	結核	759	757	733	718	883	14	20	16	8	248	153
三類	細菌性赤痢	1			1	2						2
	腸管出血性大腸菌感染症	181	182	254	215	172		4	9	7	37	22
	腸チフス				2	3					1	2
	パラチフス											1
四類	E型肝炎	4	6	1	9	8					2	5
	A型肝炎	5	2	5	3	11			1		5	3
	エムボックス				1	1						
	ジカウイルス感染症				1							
	重症熱性血小板減少症候群	2	1	5	2	4						6
	チクングニア熱			1	1	1			1		1	
	つつが虫病	4	3	7	6	1					1	3
	デング熱	1		10	14	10				1	4	2
	日本紅斑熱		7	6	11	8						17
	ボツリヌス症	1										
	マラリア	2		1	2	1						
	ライム病			1	1							
	レジオネラ症	56	60	71	89	77		1			14	29
	レプトスピラ症		1	3		3						
五類	アメーバ赤痢	14	17	26	22	25		2			9	2
	ウイルス性肝炎	13	8	6	9	6					2	4
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	116	128	110	112	147		1	1	2	36	15
	急性弛緩性麻痺	2		3	5	1					1	
	急性脳炎	24	22	22	35	29				2	15	6
	クリプトスポリジウム症	1			2	1						1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	7	9	6	6					1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	26	23	32	48	67	3			1	32	14
	後天性免疫不全症候群	41	54	63	59	56	1	2	1	1	15	8
	ジアルジア症	1	2	2	1	3						
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	14	14	13	19	28					7	7
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		3					1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	79	81	64	89	116		3	1	3	59	69
	水痘(入院例に限る)	17	16	5	12	27				1	8	11
	梅毒	314	348	566	942	880	12	7	8	10	279	124
	播種性クリプトコックス症	6	5	3	10	7	1	1			3	2
	破傷風	3	2	3	6	1						
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9	3	5	4							
	百日咳	105	29	25	24	216	102	142	87	110	895	1,792
	風しん	5		1	1							
	麻疹	1	1			1					3	11
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1	1								
計		1811	1780	2058	2482	2805	133	183	125	146	1,679	2,312

全数把握対象疾患発生状況（保健所別）
令和7年一第19週(R7.5.5～R7.5.11)

感染症 類 型	疾病名	保健所														計
		北九州市	福岡市	久留米市	宗像・遠賀	粕屋	筑紫	糸島	田川	北筑後	南筑後	京橋	嘉穂・鞍手			
二類	結核		6			1	1								8	
三類	細菌性赤痢															
	腸管出血性大腸菌感染症		2					3				1	1		7	
	腸チフス															
	パラチフス															
四類	E型肝炎															
	A型肝炎															
	エムボックス															
	ジカウイルス感染症															
	重症熱性血小板減少症候群															
	チクングニア熱															
	つつが虫病															
	デング熱		1												1	
	日本紅斑熱															
	ボツリヌス症															
	マラリア															
	ライム病															
	レジオネラ症															
	レプトスピラ症															
五類	アメーバ赤痢															
	ウイルス性肝炎															
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		2												2	
	急性弛緩性麻痺															
	急性脳炎	1	1												2	
	クリプトスポリジウム症															
	クロイツフェルト・ヤコブ病															
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症												1		1	
	後天性免疫不全症候群			1											1	
	ジアルジア症															
	侵襲性インフルエンザ菌感染症															
	侵襲性髄膜炎菌感染症															
	侵襲性肺炎球菌感染症	1				1							1		3	
	水痘(入院例に限る)		1												1	
	梅毒	1	6	1					1					1	10	
	播種性クリプトコックス症															
	破傷風															
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症															
	百日咳	12	29	9	6	6	14	5	4	8	10	6	1		110	
	風しん															
麻疹																
薬剤耐性アシネトバクター感染症																
計		15	48	11	6	8	15	8	5	8	10	7	5	146		

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症(ARI)のサーベイランスが始まりました

● 急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)とは

感染症の予防及び感染症の患者の医療に関する法律(以下、感染症法という。)の改正により、令和7年4月7日(第15週)から急性呼吸器感染症(以下、ARI という。)が定点把握対象疾患になりました。

ARI は、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称で、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、RSウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナの他、一般的な風邪の患者数が含まれます。

● 急性呼吸器感染症定点とは

ARI のサーベイランスの開始に伴い、インフルエンザや COVID-19 の観測のために選ばれた医療機関である「インフルエンザ/COVID-19 定点」の名称が「急性呼吸器感染症定点」(以下、ARI 定点という。)に変更されます。「ARI 定点」は、「インフルエンザ/COVID-19 定点」同様、内科定点と小児科定点によって構成されます。報告対象疾患は以下のように変更されます。

変更前(令和7年第14週まで)

報告対象疾患	インフルエンザ/COVID-19定点	
	内科定点	小児科定点
インフルエンザ	○	○
新型コロナウイルス感染症	○	○
RSウイルス感染症		○
咽頭結膜熱		○
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		○
感染性胃腸炎		○
水痘		○
手足口病		○
伝染性紅斑		○
突発性発しん		○
ヘルパンギーナ		○
流行性耳下腺炎		○

変更後(令和7年第15週以降)

報告対象疾患	急性呼吸器感染症定点(ARI定点)	
	内科定点	小児科定点
インフルエンザ	○	○
新型コロナウイルス感染症	○	○
急性呼吸器感染症(※1)	○	○
RSウイルス感染症		○
咽頭結膜熱		○
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		○
感染性胃腸炎		○
水痘		○
手足口病		○
伝染性紅斑		○
突発性発しん		○
ヘルパンギーナ		○
流行性耳下腺炎		○

※1 急性呼吸器感染症の患者数には、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及びヘルパンギーナの他、一般的な風邪の患者数が含まれます。

● 福岡県における定点医療機関数の変更について

感染症法改正に伴う感染症発生動向調査実施要綱の改正により、保健所管内人口あたりの定点数が変更されたことから、福岡県の定点医療機関数は令和7年第15週以降、以下のように変更されます。

変更前(令和7年第14週まで)

定点の名称	医療機関数
インフルエンザ/COVID-19定点	197
うち内科	78
うち小児科	119

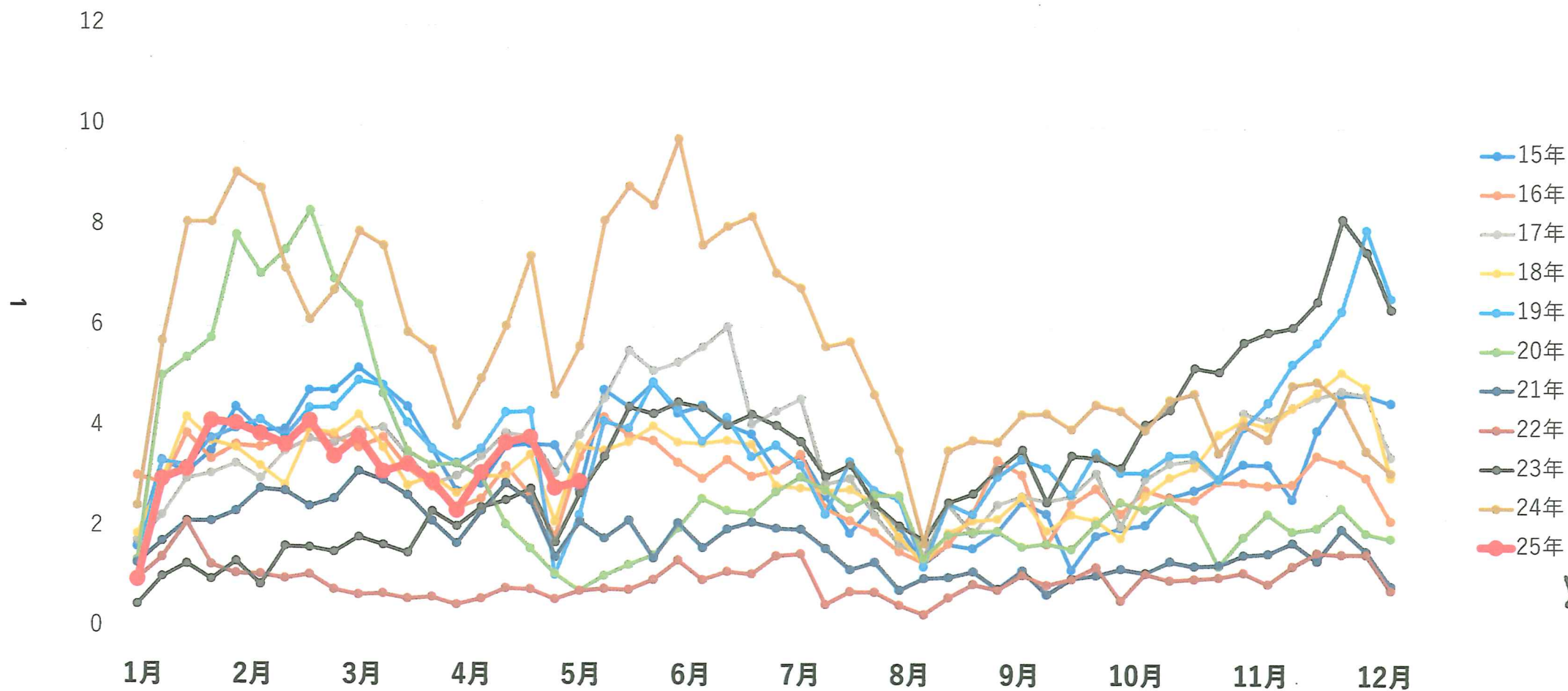
変更後(令和7年第15週以降)

定点の名称	医療機関数
急性呼吸器感染症定点	122
うち内科	52
うち小児科	70

※眼科定点、性感染症定点、基幹定点の名称及び医療機関数の変更はありません。

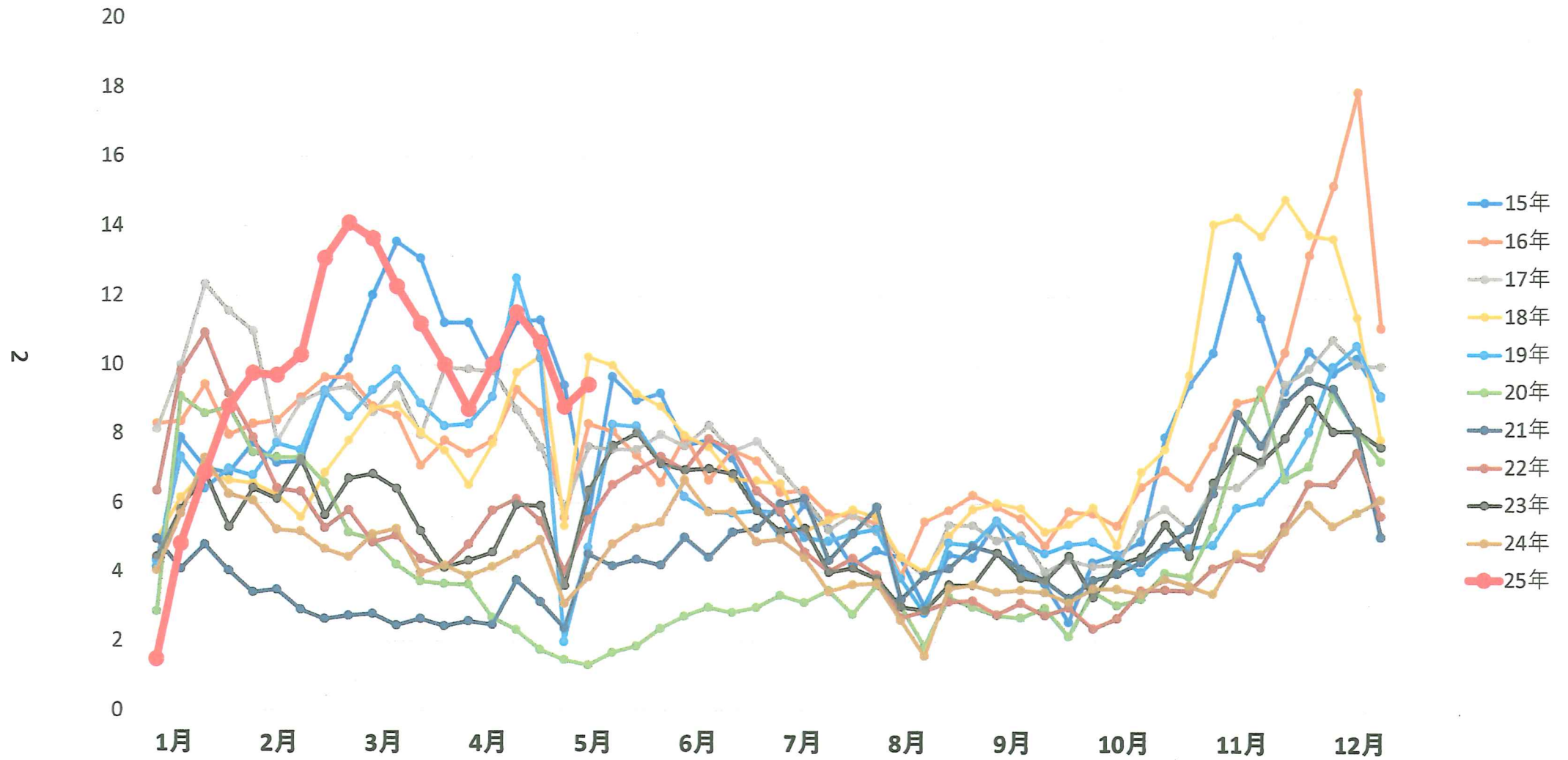
(定点値)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（過去10年間との比較）



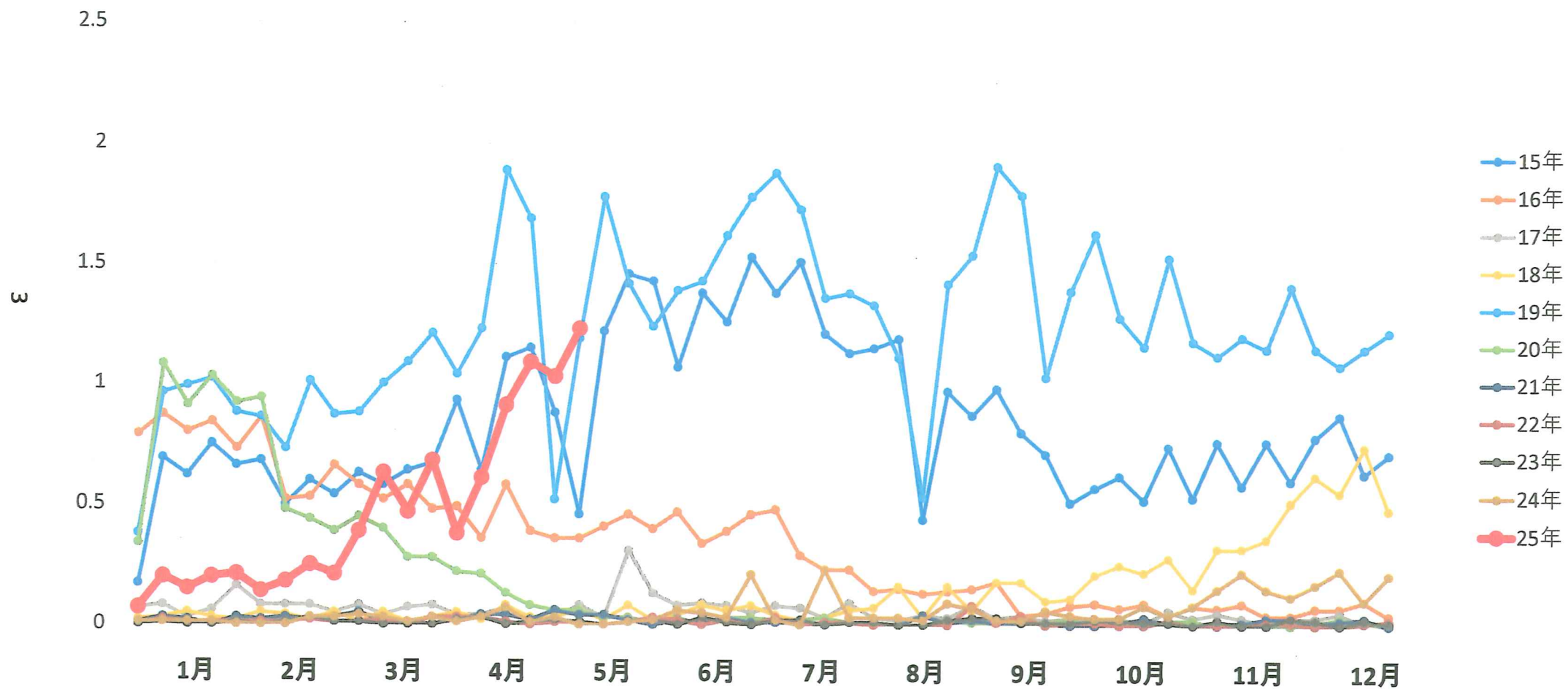
感染性胃腸炎（過去10年間との比較）

(定点値)



伝染性紅斑（過去10年間との比較）

(定点値)



感染症対策

でんせんせいこうはん

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたが**リンゴのように赤くなります（紅斑）**

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人にも基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

